患者さまへ

「救急外来で見逃された大腿骨近位部骨折症例の特徴: ケースシリーズ」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての以下の情報を公開することが必要とされています。なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2017年1月～2025年1月までの期間に当院救急外来を受診し、X線またはCTを施行したが大腿骨近位部骨折(Proximal femoral fracture: PFF)と診断されず、後日PFFと診断された患者さま
2 研究目的・方法	PFFは本邦において年間約20万人の患者が発生しており、2030年には年間約30万件に達すると予測されている一般的な疾患です。手術は発症から48時間以内に行った方が経過がよいため、早期の診断と治療が重要とされています。しかし、我々は初診時に必要な検査を行っているにも関わらず、その所見を見逃してしまうことがあります。X線で骨折線がはっきり確認できないいわゆる不顕性骨折(occult fracture)に関してはPFFでも多くの報告と研究があり、見逃さないために疑わしい症例にはMRI検査を施行すべきとされていますが、実臨床ではoccult fractureではないにも関わらず見逃してしまっている症例も多く、そのような症例の臨床的・画像的特徴は明らかになっておりません。 本研究では、見逃し件数の減少や予後を改善させることを期待し、救急外来で見逃されたPFFの臨床的・画像的特徴を明らかにするため診療録を後方視的に検討します。 研究の期間: 施設院長許可後(2025年8月予定)～2026年10月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「6. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	年齢、性別、初診日、初診時の診断名、初診時の主訴、受診経路、受診時間、初診時の体温、初診時の意識レベル、初診時の重症度レベル、初診時の普通の歩行レベル、帰宅時の歩行レベル、転倒歴の有無、認知症の有無、介護保険、住居、診断に用いた画像検査、経過、骨折の診断日、骨折の種類、骨折の診断までの時間、骨折の診断に至った経緯、骨折の画像所見、初療医、初療医の身体所見、初療医の画像所見、手術日等

5 個人情報の取扱い	収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。
6 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 湘南鎌倉総合病院 救急総合診療科 川越 千夏 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号：0467-46-1717

2025年6月30日作成(第1.0版)